

## 平成30年度第1回別府市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年12月27日(木)  
開会 午前10時30分 閉会 正午
- 2 場 所 別府市役所1階 レセプションホール
- 3 出席者
- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| (構成員) 別府市長         | 長野 恭紘            |
| 教育委員会              |                  |
| 教育長                | 寺岡 悌二            |
| 教育委員               | 福島 知克 (教育長職務代理者) |
| 教育委員               | 高橋 護             |
| 教育委員               | 小野 和枝            |
| 教育委員               | 山本 隆正            |
| (事務局) 総務部長         | 檜山 隆士            |
| 総務課長               | 奥 茂夫             |
| 総務課参事              | 本田 壽徳            |
| 総務課主査              | 中原 美紗            |
| 教育参事               | 稲尾 隆             |
| 教育次長兼社会教育課長        | 高橋 修司            |
| 教育政策課長             | 月輪 利生            |
| 学校教育課長             | 姫野 悟             |
| 学校教育課参事兼総合教育センター所長 | 亀川 義徳            |
| 教育政策課参事            | 藤田 一樹            |
| 教育政策課課長補佐          | 志賀 貴代美           |

### 4 議 題

- (1) いじめ・不登校の現状と今後の方向性について
- (2) プログラミング教育を推進するためのICTの活用、推進について
- (3) その他

## 議 事 録

発言者	発言の内容
<p>総務課参事</p> <p>市長</p>	<p>おはようございます。定刻になりましたので、これより平成30年度第1回別府市総合教育会議を開会させていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>最初に、長野市長が御挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様、おはようございます。大変お忙しい中、教育長また教育委員の皆様方にはこの総合教育会議に御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、現場で日々御奮闘いただいております先生方また関係者の皆様方にも本日御出席をいただいているということでございまして、皆様の日頃からの御尽力に心から敬意を表し御礼申し上げたいと思います。</p> <p>御承知のとおり、平成27年4月に法改正がありまして、この総合教育会議の機会を得ることができました。学校現場また教育委員会と私ども行政側との意思の共有また意見の共有をはかり、その問題の解決に向けまして、全力で子ども達のために努力をしていこうということで、私どもも日々努力を重ねる、そういう意味におきましては、この総合教育会議は非常に果たす役割は大きいと思っております。忌憚のない皆様方の御意見を今日もいただきながら、特に、今日の議題は、いじめ・不登校の現状と今後の方向性、そして、プログラミング教育の推進、そのためのICTの活用と推進でございますので、ぜひ皆様方から御意見をいただければ幸いです。</p> <p>別府市では、今年度奨学金の制度を一部改正いたしまして、返還金の免除規定等を導入いたしました。これは、将来の別府を支える人材を育成することが目的でございまして、更なる教育環境の整備を図っていこうということです。私も子どもがまだ3人おりますので、教育については、教育環境の整備や、様々な新たな制度を導入することで、部活動の問題等もあろうかと思いますが、そういったことも踏まえて、子ども達のための環境整備を、制度の整備をしていってあげたいと思っておりますので、皆様の御意見をいただきたいと思っております。どうぞ、今日もよろしくお願い申し上げます。</p> <p>これより議事に入ります。別府市総合教育会議運営要綱第3条</p>

発言者	発言の内容
総務課参事	<p>に、「市長は議長として会議の議事進行を行うものとする。」と規定されていますので、以降は、市長に議長として議事を進めていただきます。市長よろしくお願ひいたします。</p>
市長	<p>それでは、私から議事を進めさせていただきたいと思います。総合教育会議運営要綱第6条第2項に規定をされておりますので、今回の議事録署名は、寺岡教育長にお願いしたいと思います。始めに、事務局より本日の議題等について説明をお願いいたします。</p>
総務課長	<p>まず、配布しております資料の確認をしたいと思います。</p> <p>1点目は、「平成30年度第1回別府市総合教育会議」と書かれたレジメとなります。2点目は、「別府市教育大綱」。3点目は、右上に、資料1と書かれてあります「いじめ・不登校の現状と今後の方向性について」。4点目は、右上に資料2と書かれてあります「プログラミング教育を推進するためのICTの活用、推進について」。以上、4点となっております。追加でもう1点「精神科入院した思春期事例からみる養育環境の問題」を加えまして、合計5つの資料となっております。</p> <p>始めに、総合教育会議と別府市教育大綱について御説明させていただきます。</p> <p>平成27年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が一部改正され、地方公共団体の長と教育委員会が相互に連携を図り、より一層民意を反映した教育行政を推進していくため、全ての地方公共団体の長に総合教育会議を設置することが義務付けられました。これに伴い、「地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。」とされ、本市では、別府市総合教育会議における協議を経て、「別府市教育大綱」を定めました。</p> <p>今回の総合教育会議では、「別府市教育大綱」の「取組の方向性」の中から、2点取り上げて協議をしていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>「別府市教育大綱」の4ページをお開きください。</p> <p>「基本方針1国際観光温泉文化都市別府の未来を創る人材の育成のための『別府学』の推進」では、基本方向4において「ICTの活用・推進」を掲げています。「ICTを活用した授業づくりがで</p>

発言者	発言の内容
市 長	<p>きるような整備、子どもたちのICT活用と情報モラル等の育成、ICTを利用した別府の歴史・文化の情報発信」について記載しています。</p> <p>続きまして、大綱の5ページをお開きください。</p> <p>「基本方針2安心して子育てができる教育環境の整備」では、「基本方向2生きる力を育む学校教育の充実」の4番目に「いじめ・不登校問題における兆候を見逃さない体制を整えるとともに、当該児童生徒へのサポート体制を強化します。」と記載しております。今回は、「いじめ・不登校」と「ICT」の2点を御協議いただきたいと思います。説明は以上となります。</p> <p>本日は、主な議題が2点ございます。委員の皆様活発な御意見をお願いしたいと思っております。</p> <p>それでは、「議第1 いじめ・不登校の現状と今後の方向性について」の説明を亀川センター所長よりお願いしたいと思っております。</p>
センター所長	<p>それでは、資料1の「いじめ・不登校の現状と今後の方向性について」について御説明させていただきます。</p> <p>別府市のいじめの現状になります。平成25年度から29年度までの5年間の小学校・中学校におけるいじめの認知件数と解消数をまとめております。平成29年度の未解消事象につきまして、現在すべて解消となっております。</p> <p>別府市の不登校の現状になります。小学校の不登校は、ほぼ変化はありませんが、中学校では平成27年度の111名をピークに減少となっております。</p> <p>不登校の全欠傾向の児童生徒数になります。ここでは、7割以上学校を欠席した児童生徒を対象としております。小学校ではほぼ変化はありませんが、中学生では平成28年度34名から平成30年度43名へと増加しております。10月末現在、小・中学校合わせまして52名が全欠傾向の児童生徒となっております。</p> <p>不登校は減少していますが、いったん不登校になれば長期化する傾向があります。不登校の未然防止が重要となっております。</p> <p>全欠傾向の児童生徒が不登校になったきっかけ、欠席が継続している理由を市教委への報告書からまとめたものになります。複数回答となっております。大きくは、学校の要因、家庭の要因、本人の要因の3つに分かれます。52名中生活習慣の乱れが最も多く28名、続いて学業不振、家庭環境、親子関係となっております。</p>

発言者	発言の内容
	<p>その他には、対人不信、こだわりなど本人に関わる要因となっております。教師や保護者が不登校の理由が分からないということで、7名が不明となっております。朝起きられない、昼夜逆転の生活など生活習慣の乱れの現象の中でも、様々な原因や要因があり、その要因がさらに複雑に絡み合っていると考えられます。</p> <p>不登校児童生徒に関するこれまでの主な取組についてです。まず、学校の取組といたしまして、①授業改善です。教師の一方的な授業ではなく子ども同士が主体的に学べる分かる授業に努めております。</p> <p>②いじめ不登校児童生徒支援プランの作成です。各学校で不登校の未然防止、早期発見、早期対応に関する計画を立て、学期ごとに評価、検証、改善を行っております。</p> <p>③児童会や生徒会を活用した居場所と絆のある学校・学級づくりを行っております。</p> <p>④不登校対策委員会は、中学校では週1回、小学校では月1回定期的に開催しております。</p> <p>⑤スクールカウンセラー、スクールサポーターによる支援は、心理の専門委員による教育相談活動を実施しております。</p> <p>⑥不登校の早期発見、早期対応としまして、あったかハート1・2・3の実践を行っております。児童生徒が欠席した時の様子をよりの確に把握するために、欠席1日目、2日目、3日目にそれぞれ家庭連絡や家庭訪問を実施しております。</p> <p>⑦スクールソーシャルワーカーによる支援です。福祉の専門委員による家庭環境の改善等、家庭指導を行っております。</p> <p>また、教育委員会では、学校教育課及び総合教育センターで学校の取組①～⑦の指導、助言、相談を行うと同時に、総合教育センターでは、⑧教育支援室「ふれあいルーム」の運営、⑨大学生と主任児童委員、民生委員による、家庭訪問型アウトリーチ支援、⑩心理の専門委員の相談による継続相談を実施しております。</p> <p>次に不登校の要因とその対策です。それぞれの要因に対して対策を講じております。不登校が長期化する傾向があることで、未然防止に力を入れていきたいと考えております。</p> <p>不登校の未然防止のための授業改善といたしまして、大きく2つの柱を考えております。分かる授業づくりと授業の中で人間関係づくりを行っていくという視点になります。これまでも授業で行ってきたことですが、特に、どの先生も、欠席がち、不登校傾向の児童生徒一人一人を意識し、理解して授業を行っていくことが重要となります。教師の意識改革から授業改善につなげ、児童生</p>

発言者	発言の内容
	<p>徒が明日も来たくなる授業を実践していくことで、不登校の未然防止につなげていきたいと考えております。</p> <p>また、分かるまで教える授業やフォロー、全ての児童生徒に出番を与える授業については、不登校児童生徒一人一人の状況に応じた対応を行い、対策、評価、改善策のPDCAサイクルを活用し、不登校の未然防止につなげていきたいと考えているところです。</p> <p>続きまして、不登校になった児童生徒へのサポート体制についてです。不登校児童生徒の事例を3ケース御紹介させていただきます。</p> <p>まず、小学校5年生Aさんのケースです。Aさんは、小学校2年生から不登校となり、その要因としまして、親子関係の希薄さなどの家庭環境が主となっております。そこで、大学生、主任児童委員による家庭訪問を行い、スポーツ活動の提供や保護者への相談活動を行っていきました。アウトリーチ支援の大学生と約束して、2学期からはほぼ登校できるようになってきております。</p> <p>続きまして、中学校3年生のBさんです。中学校1年生の時に学校に馴染めず無気力傾向で昼夜逆転の生活をしていました。中学校1年生、2年生の時にアウトリーチ支援を行い、少しずつ人と交わることができるようになり、3年生からは、ふれあいルームに朝から通級できるようになりました。特に、下級生の世話に頑張り、朝起きなど生活リズムができ、定期テストなどでは学校で朝から受験するようになってきております。</p> <p>3ケース目は、中学校3年生のCさんです。中学校2年生からほぼ全欠傾向で、中学校2年生でアウトリーチ支援、中学3年生でふれあいルームの支援を行って参りましたが、現在十分な支援ができていない状況で、家庭に引きこもり傾向となっております。アウトリーチ支援では、家庭の中で支援できない、ふれあいルームでは送迎ができないなど、支援が非常に難しいケースとなり、こういったケースが多くなってきております。そこで、今後はさらに多様な学びのセーフティーネットを構築していく必要があると考えております。</p> <p>その一つといたしまして、フリースクール民間事業との連携になります。現在、市内にはフリースクールは無いものと認識しております。大分市等では、いくつかフリースクールと呼ばれる施設があります。本年度になり、その施設を訪問し、お話を聞くことができました。特徴といたしましては、放課後デイサービスや学習塾と共同経営しております。</p>

発言者	発言の内容
市 長  福 島 委 員	<p>また、フリースクールでは、学校から出席扱いとなっているものもあります。フリースクールをはじめ不登校児童生徒に対する多くの学びの場の提供やサポート体制の充実が必要であると考えております。</p> <p>以上で、不登校の未然防止と不登校児童生徒のサポート体制の今後の方向性についての説明を終わります。</p> <p>はい。それでは、皆様から質疑、意見をいただきたいと思いません。福島委員いかかでしょうか。</p> <p>一般論で言ったら、何でもそうですけど、不登校とかいじめとかいうと、いじめられたことがない人が論じるんですよ。不登校になったことがない人、本当はいじめられたことがない人が、条件的にこういうのを並べて解消しようというのも1つの手かもしれないませんが、今大人になっていじめられたことがある人が、対策を練るとまた違うのが出てくるんじゃないか、というのが私の意見です。</p> <p>教育委員会の中で、もう1回このことをやるかとなると非常に難しいですけど、市長が号令を出して、いじめられたことがある大人を、不登校になったことのある大人を集めて、そういうことをしたら、少しは、もっといじめの解消法、不登校の解消法が出てくるんじゃないかなという気がするんです。</p> <p>一般的に色んなことを話すときに、勉強ができない人ができるようにするというのを話さないと、できる人ができない人の学力を上げるというものすごく難しいんです。だから、号令を出すようなことをやってみませんかというのが私の意見です。</p>
市 長	<p>大変貴重な意見をいただいたと思います。正にそういう当事者の立場になったことがない人達が、こういった計画を立てるといいうのが非常に無理があると思います。当事者の意見を、体験した人の意見をより多く集めて、その当時どうだったのか、もっとどうして欲しかったのか、そういった問題解決を図れるような、有効な会議を開いていく。これは、総合教育会議の例えば、何かしら別の部門みたいな、小委員会のようなものを作るなり、また別の所での協議会でもいいので、行政と教育委員会とが合わさったところでこういった取組を是非していきたいと思いません。</p> <p>またそれは、別途今年度どこかで開けるよう調整をしていたければと思いませんので、貴重な意見をいただきまして本当にあり</p>

発言者	発言の内容
<p>福島委員</p> <p>市長</p>	<p>がありがとうございました。</p> <p>もう一つ例え話を言うと、私が中学の時に、ああいう英語の教え方をしてもらえたら絶対英語が喋れると思うんです。今はあまり喋れないからですね。だから、そういうのを踏まえたところを是非とも。できなかった人を集めるとか、国語の問題でも何でもそうですね、あの時あの先生がこういう教え方をされていたら、私はもっと国語とか作文がとか。そういう逆説的なことをですね。</p> <p>確かにいじめの問題もそうですけれども、当時というか、今と昔を比較するとなかなか環境的にも難しいかもしれませんが、比較的若い世代の人でもいいので、例えば、どういう教え方をしてくれたら得意になったかとか、逆に未だに苦手なのは根本的に辿っていくとどこに原因があるのかとか、こういったことを話し合っていくというのも非常に有効かなと思っています。</p> <p>ですので、総合教育会議の議題の中に上げられるように、どこかでそういう話し合いとか、そういった協議ができるような場を、積極的に作っていただければいいと思います。</p> <p>総合教育会議は、上っ面というか解決できているようなことを披露する場ではないと思います。正に子ども達のためにどういふふう実践をやっていくかという場だと思っていますので、問題を抽出してそれに対して積極果敢にアタックをしていく場にしていきたいと思っていますので、是非これはやっていきましょう。よろしくをお願いします。高橋委員。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>今の福島委員さんの話ではないんですが、実は、私はいじめたこともあるしいじめられたこともあるし、という体験を持っています。不登校になった原因のナンバーワンではないかなと思ってきました、いじめによる不登校がゼロという報告を今いただいて、ああそうなのかな、今はやっぱり随分変わってきたなという感じがするんです。</p> <p>私はいじめたっていいですか、あだ名で呼び続けた1年、年上の人がいたんですが、その人が高校生になった時に、その高校生の仲間が集団で私のところにやってきて、学校の裏でしたけど、殴られ、蹴られ、踏ん付けられというようなことをされました。その時にたまたま、担任ではなかったんですけど、当時の先生の一人がそれを発見してくださって、後日、高校生と私とそれから現場を見た先生と校長先生と、校長室で本当にざっくばらんに話し</p>



発言者	発言の内容
市長	<p>合いをさせていただいて、それで解決していったんです。</p> <p>今は当時とは随分違って来た感じがします。先生っていうか、学校の現場の先生方に解決してくださいと言えないような時代になったのかなど。そうするとやはり、一人一人のケースが全く違って来ましたので、その一人一人のケースに対応できるというのはなかなか難しいかなど。余計に専門家とか、そういう方々に入っていて、皆でその児童生徒を守っていくというふうなことをしていかないと解決できないような状況になっているんじゃないかなど。だから、これをやれば不登校は根絶する、ゼロになるという方法が今はないんじゃないかと。ベストは難しいけれど、ベターな方法で一人一人を大切に育てていく姿というのが、やっぱり教育では求められる時代になったような感じがするんです。</p> <p>両方の立場の経験があるという高橋先生の力強い御発言だったと思います。確かに、学校の現場の先生方は大変だと、昔のように生徒は多かったけれど、社会的な問題とか様々な要因が絡んでいなかったと言ったら、語弊があるかもしれませんが、そういう時代じゃなくて、一人一人にきめ細かなケアをしていかなければいけない時代だと本当に私も思うんです。早期にいじめの問題とか家庭に手を突っ込まなくていいかといったら、やっぱりそこまである程度しなくてはいけないので、先生方がそこまで、なかなか時間に猶予がなく精神的にもできないということであれば、民間の皆さんにどういう手当を講じて欲しいとか、どういう人達に手伝って欲しいとか、それに対してどういう形で予算を組めばいいか言っていたら、教育に対して予算を組むとはっきり言っていますので、お金で解決できる、全てが実現できるとは全く思っていないけれども、解決できる部分はあると思うんです。来年度予算に向けて、お金だけじゃないですけど、人のこととか物のこと、お金のこと、しっかり集中してこれをやっていけたらいいなと思っています。それも是非、また高橋委員さんの意見も反映させていただきたいなと思っています。</p> <p>小野委員どうぞ。</p>
小野委員	<p>私は、ちょっと違うかもしれないですけども、やはり、その子どもが不登校になっていく家庭っていうか、それを早く気が付くっていうか、これ似ていますけれども、その家庭の要因も多くてそれはたくさんあると思うんです。だから、どういうふうに気を付けて、例えば、学校とかそういうところと連携してやってい</p>

発言者	発言の内容
センター所長	<p>ったらいいのかというのが1番ありまして。</p> <p>子どもが学校に行かなくなるとやっぱりその家庭にも要因もあるでしょうけど、家の中も暗くなって、毎日何気ない普通の朝、出勤時間に小・中学生が普通に出かけて行って、外で声が聞こえますよね、それを聞くだけで親としては涙が出てくる思いですね。何で普通にあることができないかっていう、思いが強いと思うんです。いつも家に居て向き合っているのです。</p> <p>お聞きしたいんですけども、5ページで自然体験活動の提供ってあるんですが、いつも家庭で家にいらっしゃる親と、また全然仕事等で家にいらっしゃらない親もあると思うんですけども、ある程度色んな自然体験をするとか、ちょっと離れて自分の力で学ぶとか、そういうふうなコミュニケーションをするとか、そういうことはどういうふうに行われているのかお聞きしたいんですけども。</p> <p>ここでは、社会教育課のおじかを利用いたしまして、特にふれあいルームに来ている児童生徒が、おじかを活用して体験学習を現在年に5回泊まりも含めて実施している状態です。またこれから先、アウトリーチ支援を実行している児童生徒も実施する予定です。</p>
小 野 委 員	1泊？何泊ぐらいでやられているんですか。
センター所長	今年は1泊でやっております。
市 長	延べ人数で何人でした？人数と機会は何回何人？
センター所長	年に5回ですね。そのうち1回が泊まりで、あと4回が日帰りになっております。生徒の方は、だいたい6名から7名になっております。
市 長	これは、全欠傾向のお子さん達を中心となっている？
センター所長	そうです。
市 長	変化は何かありますか？
センター所長	修学旅行とかですね、長い長期の旅行に行くそのいい経験にも

発言者	発言の内容
市長	<p>なっていますし、普段こういった不登校の子ども達は、家庭に居ることが多くて人と交わることが非常に少ないと感じております。体験が非常に少ない、経験がない、中には初詣に行ったことがない子どももいます。そういったのも含めまして、自然体験学習やふれあいルームでは、年明けの初詣とかそういった体験を計画して実践しているところです。</p> <p>山本委員どうぞ。</p>
山本委員	<p>今日は資料を持って来たんで。これは今年の6月にビーコン・プラザであった学会ですけど、日本トラウマティック・ストレス学会というところで私が発表した内容で、今日の不登校関連に非常に関係があると思ってきました。</p> <p>2ページ目を開いていただいて、図1ですね、日本における自殺者と不登校の推移というグラフが書いてあります。今日の資料にもありました。別府市はそんなに急激には増えてないというデータでしたけれども、全国で見ると、ピンク、青それから緑が自殺の推移で、緑が特に男女合わせた合計ですけども、ずっと3万人の自殺者が続いていたのが、7、8年前に3万人切って、これがずっと減少して2万人まで減っているんです。これもいろんな要因があると思うんですが、経済的にアベノミクスで経済が潤ってきたのが一つの要因じゃないかと言われてはいますが、実は、1998年に不登校児も含めて自殺者もどんと増えているんです。なぜ増えたかという、ここに書いてはありますが、金融危機とかデフレの始まりで、思い出していただくと、この時本当に物の値段も下がって、あとリストラ、リストラみたいな状況だったんです。そこで、同じように自殺者数が上がって、同じような推移を不登校がしているんですけども、実は、この数年ですね、2014年以降、不登校は減少せずに増加に転じているということです。私も、不登校の問題というのは大きな問題ではないかと思えます。私は別府市内で精神病院を運営していますが、図に10代それから20代の入院数の変化というのを下の図の右側に書いてはありますが、特に10代ですね、10歳から19歳の入院数がこの数年非常に増えています。26人、37人、36人。これはダブリを入れておりません。入院する患者の特徴としては、強制的に入院させる場合が多いので、非常に重たいケースが多い。3分の2ぐらいのケースは児童相談所からの入院依頼です。一時保護というのを児童相談所がして、その委託で入院して</p>

発言者	発言の内容
	<p>治療に当たっています。</p> <p>3 ページに、主な診断名を、2010年から2017年の8年間に入院した105名について書いています。</p> <p>1番、行動・素行の障害39名、2番、情緒・不安の障害40名と書いていますが、簡単に言うと、1番は暴れるお子さんです。暴れる切れる暴力振るう。それから、2番、情緒・不安の障害。不安になったり、リストカットしたり、死にたいと言ったり、鬱になったりですね。場合によっては、引きこもりも入ってることがあります。それから3番は、統合失調症とか躁鬱病とか、そういう精神病の分類、4番が知的障害、5番が発達障害ということで、入院してくる重度のこういう行動の障害の方は、行動素行の障害と情緒・不安の障害の方が大部分であったと。</p> <p>4ページの下に、細かい問題行動を病名別に分けて書いてあるんですけど、児童の症状というところに自傷、他害、自傷はリストカットで、他害は暴力です。それに不登校もカウントしていません。105名中74名が不登校でした。</p> <p>それから、その隣に、親の問題、両親が離婚しているとか、親に精神疾患があるとか、それから、児相から入ってきますし、また聞き取りをして、これは明らかな虐待があるというケースもカウントしています。関係機関、施設入所というのは、だいたい児童養護施設とか、そういうところに入所している方です。</p> <p>いくつか特徴的なところを5ページにグラフにしましたけども、図3です。病名ごとに、背景に虐待があるのが赤、それから、オレンジは虐待と親の精神疾患、親の精神疾患というのは、鬱病とか、統合失調症、アルコールとかです。その上、茶色が親の精神疾患のみというので、青で示しているのは、特にこういうふうな背景がなかったものです。105名を調べてみると、特に、行動・行為障害や情緒・不安の障害が3分の2の児童に、その背景に、虐待と親の精神疾患があったというのが分かりました。それは、その他の部分とは違いました。</p> <p>更に、その離婚家庭だけに絞ったんですけども、離婚家庭だけが36症例ありましたが、ほぼ全てに、背景に虐待と親の精神疾患が背景にあったということで。問題行動、不登校になる原因の1つとして、やはり虐待の問題、それから親の精神疾患それらを含めた養育環境の問題が非常に大きいんじゃないかなと思っています。</p> <p>6ページのグラフは、年齢別にどういった方が入院しているかということで、一般的に精神病院は中学生以上しか来ません。だ</p>

発言者	発言の内容
	<p>いたい12歳以上ですけれども、中学年代12歳から15歳、この間はブルーのところの帯が目立つと思いますけれども、ブルーの帯は、これは行動・行為の障害ということで、基本的には暴れる、切れるというふうな方が多かったです。それから、高校年代になると少しオレンジが増えてくるので、情緒不安が多くなる。特徴的なのは15、16歳、特に15歳ですね。情緒不安の障害。これが非常に頻度としては多い、これは何を表わしているかということ、中学卒業してこれから自分はどうなるのかというふうな不安ですね。そこが非常に大きなポイントになってくるので、そこがうまくクリアできて進学が決まると落ち着いてくるというのがあると思います。その後、高校卒業する時も不安定になってきます。</p> <p>最後に7ページ図6のところですか。そういう不適切な養育環境にはどういうものがあるのかということ、その最たるものが虐待で、この4つですけれども、それ以外にも考えないといけないのが、まず、その母親自身の情緒的な不安定さということで、虐待を受けて育ってきた人はまた自分の子どもにも連鎖していくというふうな、育て方が分からないというふうなことですね。虐待を受けた子ども達のことを愛着障害っていうんですけれども。</p> <p>それから、お母さん自身が精神疾患を患っていると今回この統計で出ました。アルコール依存も結構多いです。それから、明らかな養育能力の不足で明らかな知的障害がある場合もありますし、知的障害があるとはいわなくても、やっぱり養育能力が低い方がいるので、そういうところを重点的に対策しないといけない。それから、親自身が発達障害だったということがあります。それから、母親以外の家庭の問題というと、やはり、貧困の問題とか、親が死んでしまったとか、父親がDVをしているとか、そういうこともよくあります。お父さんの問題としては、お父さんのアルコールもあります。躁鬱病の躁状態で、子どもを叱りまくるというのも結構見られます。それから、両親が常にけんかをしている、面前DVって言います、そういうのも多いです、離婚家庭でこれだけ背景に問題があるっていうのは、片親で育てると非常に経済的な問題も大きくなってくるので、母親一人で十分な子育てをするのは難しいんだろうなと思っています。</p> <p>それから最後に、子ども自身の問題ということで、子ども自身に発達障害があったり、発達障害がなくても同じ兄弟でもそういう素質が違いますから、逃げられる子ども逃げられない子どもっていうのはいるんだろうなって視点で見えています。</p> <p>この辺の視点を持っていただいて、不登校の対策に当たって</p>

発言者	発言の内容
市 長	<p>ただきたいというのと、それから、一つの医療圏、一つの施設だけでは到底無理なんで、学校だけでは対応できないと思います。是非、児童相談所だったり、保健所だったり、あと市役所の中にも子育て課があったり、それから貧困が絡んでくると生活保護世帯も多かったですりするんで、横の連携を十分に取っていただいて、こういう家庭の問題が解決していくようになればいいんじゃないかと思っております。</p> <p>ありがとうございました。こういうデータから見ると具体的な症例があって、これに対してどうアプローチをしていけばいいのかということが、問題は簡単ではないのでアプローチの仕方は難しいですけど、問題は明らかになっているんで、それをじゃあ具体的にどうやって、例えば、児相もありますし、場合によっては、要保護児童対策協議会も。不登校ではないんですけども、要保護児童の例えば対策協議会の中にそういった色々な方々が入っていますから、その場でこういった問題も共有していこうとか、様々なやり方が見えてくるなと思いました。</p>
山 本 委 員	<p>ほぼ皆さん要保護対策に入っている方が多いと思うんで、で、最近よく個別ケース会議を開いてくださいというのを要請されるんで、是非、それは必要なものかなと。一同が集まって情報交換をすると、そこで対策がいろいろ出てきますので、是非、そういう個別ケース会議も大事かなと思います。</p>
市 長	<p>いじめ・不登校の問題は、K P I で言えば、これを0（ゼロ）にするということが当然で、3件にするとか4件にするとかではないと思います。K P I は0（ゼロ）にすると。その過程において、こういうデータをいただきながらですね、具体的に個別のケースを、症例を皆さんで共有をして、どういう解決を計っていくか。</p> <p>例えば、さっきの全欠傾向の児童生徒は、52名ですよ。52名だったら、それぞれに、やっぱりきめ細かなケアってできるだろうというか、しなきゃいけないと思うんです。大変なのは分かるんですけど、だから、その点どういうようなお力を借りると良いかということをしっかりお互い考えていかなきゃいけないなと思いました。ありがとうございました。</p> <p>寺岡教育長、何か。</p>
教 育 長	<p>いじめ、あるいは、不登校の問題につきましては、市の方向と</p>

発言者	発言の内容
	<p>してできないことを述べるのではなくて、どうしたらできるかということ念頭に置きながら、ずっと今日まで同席している校長先生方と行政と本当に取組んできましたけれども、残念ながら、昨年は118名の長欠生、そしてまた52名が104日以上ということで、大変心を痛めている状況でございます。中学校における義務教育の出口が不登校というようなことで、生徒さんに卒業式の時にも出席できないような、そんな教育を今別府はやらざるを得ない現状に対して、本当に申し訳ないという気持ちでおります。</p> <p>不登校につきましては、「学校が変われば子どもが変わる。あるいは、授業が変われば子どもが変わる。」というスローガンがセンターの方から出されましたけれども、まず一つとしましては、とにかく授業を変えていくと。授業をどういうふうに変えるかということで、今やっと文科省の方も主体的で対話的な深い学びということで、対話的ということが入ってきております。で、小学校から中学校に上がる時に、あまりにもその子ども達は、中学校の教育面に対してなかなか馴染めないということが一理あるということがありまして、中学校1年生から2年生と上がっていくにつれてどんどん学校から離れていく、授業から離れていくという傾向に校長先生方も本当に胸を痛めております。毎月必ず校長先生方の方から長欠生の報告書をいただきますけれども、4月は5ミリから1センチぐらいです。それが、今の段階になると、もう10センチぐらいになります。校長先生達は直接子ども達、先生方とやっていますのでなかなか打つ手が無いというような状況だと。先程もございましたとおり、学校教育だけでは難しい状況もあるということで、相談機関等、もうちょっと初動のところの、子どもが本当に1日、2日、3日より休みがちになったところをもっと丁寧に、慎重に、その子がどういう状況で今学校を休んだのかというところを、もう少し分析、調査、研究して、お家の方と学校の担任とかと、学校の方で真剣にされて、どうしても学校から離れてしまった時は、また教育機関の方で対応してあげるといふ。まずそこを、初動のところをもうちょっと真剣にならないといけないなと思っております。</p> <p>あとは、お家の方の協力で、本当に子ども達に対して責任を持った教育を、家庭教育をやってもらいたいということで、家庭、地域、行政と一体となって、コミュニティスクールもしておりますけれども、PTAと一緒に子ども達を大事に育てないといけないということを思っています。</p>

発言者	発言の内容
	<p>今日同席されている校長先生方、本当にもう数ヶ月後にはまた卒業式がございますけど、その時にまた学校、卒業式の時に席がない子どもさんのことについて、本当に、悩むような状況がございますけれども、できるだけそうならないように、別府の子ども達がこの学校で良かった、この教育で良かった、この授業で良かったと言えるようなそういう先生方を1人でも多く育てて、そのような教育をしないといけないということを、要因と対策とか、諸々のことについても自覚しながら、責任持って取り組まないといけないということを改めて思いました。ありがとうございました。</p>
市 長	<p>いずれにしても、未然に防ぐ未然防止の部分と、長欠になった部分の具体的なしっかりとした対応と、2つに分かれると思います。最後にフリースクールってありましたよね。別府になくて、例えばそういった場所を民間の皆さんと作っていかうとしているのか、今ないのでそれを具体的にどこかで、例えば放課後デイサービス、これはありますよね。こういったところで委託みたいなことで何かお願いしようとしているのか、その辺りはどうですか？</p>
センター所長	<p>放課後デイサービスが市内に16か所ありまして、年明け1月に集まる会議がありますので、不登校の現状と教育委員会といたしましても、フリースクールを作っていただくような方向でお話を進めていきたいと今考えているところです。</p>
市 長	<p>その他、委員の皆様方から、この議題の中でさらにいうことがあれば、よろしゅうございますか。</p> <p>続きまして、議題の2番「プログラミング教育を推進するためのICTの活用、推進について」の説明を学校教育課長よりお願いしたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>お手元にお配りしております資料、右肩に資料2と入っておりますものを御覧ください。</p> <p>前半の議題1のこれまでの協議の中で、キーワードを拾い上げてみますと、当事者、個別のケース、民間、早期発見、行政間の連携が重要になると思っています。今後は、どうやってそれを実現するかというところにつきましては、学校教育課の方でしっかりと取組みを考えていきたいと思っています。貴重な御意見をありがと</p>



発言者	発言の内容
	<p>うございました。</p> <p>最後に教育長から、なんと言っても授業を変えることが大事だというお話をいただきました。52名の長欠傾向の子ども達、原因が様々ですけど、23.1%が学業不振ということでもありますので、まさに子ども達が1日の大部分を過ごす授業の時間、これをどう変えていくかということが、本当の教師としてやらなければならないことではないかと思います。そういった意味でも、多様な授業を行っていくという点に絡め、今から申し上げるプログラミング教育をどう推進していくか、ICTを活用した授業をどう取り入れていくか、ということが大事になってくると考えております。</p> <p>では、お手元の資料に従いまして御説明申し上げます。右下にスライド番号を打ってございますけれども1番の資料です。</p> <p>プログラミング教育が求められる背景ということで、真ん中に書いていますけれども、情報機器やサービス、情報を適切に選択・活用していくことが不可欠な社会が到来してくると。子ども達にとっては情報活用能力の育成が極めて重要な状況になっていますけれど、これは、社会変化に伴って求められる教育課程だと思います。</p> <p>次のスライドです。社会の状況がそういうようになると同時に、新学習指導要領において、この度プログラミング教育が示されました。小学校の方を御覧いただきますと、アンダーラインを引いているところです。基本的な操作を習得するための学習活動をする事と、論理的思考力を身に付けさせるというところ、この辺りがキーワードになるかと思います。</p> <p>一般的にプログラミング教育と申しますと、主に小学校を指すと御理解いただいてもいいかなと思います。新しく入ったのは小学校です。中学校では、5年前から技術・家庭科の分野で行っておりまして、体験材料が1つ増えるということになります。</p> <p>では、次のスライドです。プログラミング教育とは何かということで、今申し上げましたけれども、プログラミングを体験しながら、プログラミング的思考、論理的な思考力を得る。では、プログラミング的思考とは何かと申しますと、コンピュータを使い自分が意図した一連の活動を実現するために、どうやっていけばいいかということ論理的に思考していく、論理的な思考力を身につけていく。まあ虎視眈々と考えていくということですね。下に資質・能力が3つあります。これは、新しい学習指導要領における3つの論理と内容的には重なっています。社会の中で人生の中</p>

発言者	発言の内容
市長	<p>で、いかに使っていくか、思考力等を高めていくか、基本的な技術・能力・理解をどう深めていくか、というところでございます。</p> <p>次です。プログラミング思考で視野を広げてみました。授業の中でプログラミングという教科があるわけではありませぬので、どの教科で、どの単元で、要は力を付けていくかということ、活動していくというところで。これから、校長先生方におかれては、教育課程を作る中で、カリキュラムマネジメントを行っていかねばならない。ここでは、算数科を挙げていますけれども、今までは、正三角形を描くとなると、三角定規や分度器を使って図形を描いていたわけですけど、それを、コンピュータで、作図する時にどういう指示をコンピュータに出せば、自分の思い描くような三角形を描いてくれるのか。それをいかにまた合理的に端的に指示を出すか、そういう学習活動の中で考えられるという例でございます。</p> <p>これからの見通しが5番目のスライドです。平成32年度、2020年度に小学校で全面実施になりますので、平成31年度来年度は各学校において先ほど申し上げました教育課程の見直し、教材開発、そういったことが必要になります。教育委員会においても、庁内に検討委員会を設けて、ハード・ソフトの整備について議論していくことが必要だと考えております。</p> <p>現在の学校における環境整備について、簡単に。十分に整備ができている部分と、まだまだ整備が必要な部分とございます。リーダーチャートで示した7番目のスライドですけれども、小学校の場合は、この学習者用のタブレットがまだ大分県全体の中でいうと不足している。それから中学校においても同じように。こういったところは、今後環境整備が必要というところで、整備のイメージを最後に掲載しておりますので、御覧ください。もう1点、動画を皆さんに御覧いただきたいと思ひます。御覧ください。</p> <p>(教室でプログラミング教育を実施する様子が分かる動画を再生。約3分間)</p> <p>ちょっと声が割れて聴きにくかったと思ひます。申し訳ございません。先生方にイメージをしていただく必要があろうかと思ひますので、今後2020年に向けて条件を整えていく必要があると思ひます。以上でございます。</p> <p>それでは、この件に関しまして、皆様から御意見、御質疑をい</p>

発言者	発言の内容
山本委員	<p>ただければと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>プログラミング教育という言葉は聞いたことがありますが、今やっと多少イメージできたんですけど。</p> <p>普通プログラミングっていうと、昔だったらBasic言語とか、C言語とか、そんな難しいのは小学生には無理だと思うんですけども、マクロとか、エクセルの計算式とか、多少Javaも使うのか分かりませんが、そういうのをイメージするんですけども、今出てきたのはおもちゃが動くみたいな動画で、多分その制御をタブレットで何かやっているのかと思うんですけど、その肝の部分ですね、あれは何のプログラミングをしているのか。どういうふうにプログラミングをして動かしているのか、その辺がちょっと見えないんで、中学生までプログラミング教育があるみたいですけども、どういうものなのかなと。それから、本当にプログラミングするんだったら、タブレットではプログラミングはできないだろうというイメージが、昔のイメージでいくとキーボードで入力しないと無理なんじゃないのっていう感じがするんですけど、その辺はどうでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>コーディングとか、昔のDOS画面で入力するとか、そういうコアな部分ではなくて、ラインのソフトを使いながら、そこにコマンド、指示を入れて制御していくというような。一つは、実際に体験してみるとということと、もう一個は、あくまでもプログラミングプログラマーを育てるための教育ではなくて、プログラミング技術を身に付けるというよりも、そういうことを通して論理的に思考していくという場面に出くわすと。論理的に思考するとはどういうことかということ子ども達が身に付ける、そういった授業になると思います。今、山本委員がおっしゃった部分についても、今手探りで先生方も各学校において研修を積み重ねられていると思いますので、具体的事例を集めながら、検証していきたいと思います。</p>
山本委員	<p>論理的って、僕は結構プログラムを組まされたんでやったんですけど、結構論理的に考えるんですね。例えばループがありますよね、ループを何回やったらこうで、こうなったらここを抜け出すんだみたいな、そういうのって結構プログラミングの基本のところなのかなと。あと、IF文とかもありますよね。もしこうなったらこれで、そうじゃなかったらこうなんですよっていう。そ</p>

発言者	発言の内容
学校教育課長	<p>ういうのも当然入ってくる概念なんですかね？</p> <p>まだちょっとはつきりしないところがあるんですけど、イメージとすれば小学校ですので、ある程度これ用のできているソフトを使いながら、それに数値を入力するとか、初歩的な体系になるだろうと思っています。</p>
福島委員	<p>今、山本委員が言いました、ああいうのはもうしないんですよ。昔ね、携帯電話が最初にあった頃、マニュアルがいっぱい付いていたんです。今スマホにはマニュアル無しなんです。勝手にできるようになっているんです。だから、今のプログラミングも勝手にやれるようになっているんです。昔にIFがあったとか、ANDだとか、そんなの全然なくなっているんです。</p> <p>だから、我々はやっぱりマニュアルがないと、コンピュータとか携帯もできなかったですね。本当に猫に小判って感じで、マニュアルを一生懸命見ていたんですが、今の子ども達はもう猫に鯉節で伝えるだけでどんどん行くからですね、ある意味怖いですよ。それがどんどん講じるとどうなるかっていうと、作文もコンピュータの画面上で出てくるし、文章も「新年」って入れたら「おめでとうございます」って出てくるし、そういうのができなくなるからです。是非ともバランスよく、やっぱり日本はものづくり大国ですから、ものづくりがちゃんとやれるように指先だけはちゃんと動くようにならないと、バランスを考えてICT教育をやっとかないと。やっぱりちゃんとプログラムを作れる教育も大事ですから、バランスのいい教育をしてもらいたいと思います。</p>
高橋委員	<p>今の御意見、正にそのとおりでと思うんですが、例えば、市役所さんとか、出張所さんとかね、あるいは銀行とか、何か身分証明のために運転免許証をお持ちですかとか、健康保険証をお持ちですかとかいうことを言われるんですね。いつも行き慣れている私というものを知った方でも、身分証明書ということで、なんか人っていうものが軽くなってしまっているとか、失われているっていう感じがするんです。そうすると、どんどん機械が発達することによって、人間ってなんだろうとか、人間関係ってどう構築していったらいいだろうとか、肝心要の心の面がちょっと遅れているとか、忘れがちになっていくんじゃないかなと。だから、新しいものを導入するのもいいですが、メリットもあるでしょうけど、デメリットもあるということ、ちゃんとわきま</p>

発言者	発言の内容
	<p>ていかないといけないかなど。機械ですから、正三角形を描くの にどうしたらいいか、入力していくという考える力も当然養って いけるでしょうけど、逆に、考えなくて答えがすぐ機械によって 出てくるような、もう考えなくてもいいというふうに思ってしまう と、大変間違った方向に行くんじゃないかなど。だから、本当 に今の御意見のように、バランスいい活用方法っていうのを大事 にさせていただきたいという思いでございます。</p>
市 長	<p>ありがとうございました。その他ございますか。</p>
小 野 委 員	<p>I C Tの活用ですけれども、私的にはプログラミングっていう か、教育現場で授業の理解度を上げたりとか、子どもの興味や意 欲を引き出したりするための一つの道具、ツールと考えて捉えて やっていくものと思っているんですが、それでよろしいですか？</p>
学校教育課長	<p>今、小野委員がおっしゃった部分が、最も基本的な重要な部分 だと思います。ツールとして活用しながら、より効率的、効果的 にやっていくということに加えて、プログラミングに、コンピュ ータに慣れ親しむと、コンピュータに入力してコンピュータを動 かすと、そういう経験をさせると、そのこと自体、そのレベルで 求められていることがあるかと思います。</p>
市 長	<p>昔のプログラミングと、今の我々の考えているプログラミング でやろうとしていることは全然違うと思うんですよね。だって、 活用を子ども達はもうしていますよね。多分、お題を与えたら、 確かに論理的なプログラミング的思考ということを見ると、そ こが一番大事で、理論、理屈でそうなるということをきちっと教 える必要があると思いますけれど、活用はですね子ども達すごい と思うし、学校の先生方より上手いと思いますよ。</p> <p>正に、こういう分野こそ専門的な知識を持った人達に、ある程 度委ねて、先生達も同時に学習していかないといけないし、子ど も達の方が、下手したらお題が出たらどンドンどンドン先に行っ ちゃったりして、福島委員が言うように学校の教育の中で意図し ていないような力を身につけてしまうような危険性もあるかと思 います。</p> <p>うちの小学校1年生とか4年生の子どもでも勝手にもうタブレ ットでやります。教えたわけじゃない勝手にやるわけです。なの で、これは有効に使っていく、使っていないと生きていけない</p>

発言者	発言の内容
教 育 長	<p>と思うんで。これは使っていないといけないですけども、血の通った部分と、役所でもそうですけど、A I まではいかないけれども、いわゆる働き方改革の中で、定型的なものに関しては、この数字、この作業をこういう形でやっていけば、必ずこういう結果が生まれてくるから、この分は人間の作業じゃなくて、機械の作業のようになってきて。ここにこういう数字を入れれば、こういう答えが出てくるんだみたいなことをしっかりと理論理屈をきちっと分かってもらおうと、そういうことですよ。ただ血が通った部分はあるまでも人間がやっていけないので、こういう便利な世の中になれば、全部機械に任せてOKではなくて、ここの部分は機械に任せて、人間はどういうことをやらなきゃいけないのかということをしかりと教えていくということだろうなと思います。</p> <p>是非、これも色んな外部の方、外部の先生方にもしっかりと意見を聴いた上で、専門的な知識を学校の中でも積極的に先生方と生徒達に取り入れていくと。我々、総合教育会議の中でも、色々と勉強していかなければならない課題があるということを思います。その他、教育長いいですか？</p> <p>今、御意見いただきましたので、2020年度から全面実施です。小学校教育におきましては、英語教育も全面実施、プログラミング教育も入ってくる、小学校の方は非常に多忙になって、先生方の研究と実際の教育課程の編成とかが入りますので、そこはまた研修も含めて、慎重に準備をしたいと思います。ただ、ハード面の整備を、ICTの整備をしないと、なかなか推進できないと思いますが、なるべく市長の方と連携を取りながらやって行きたいと思います。今日はありがとうございました。</p>
市 長	<p>その他、意見はよろしゅうございますか。</p> <p>それでは、議題3のその他でございますが、何でも結構です。今日一日を通して御意見がありましたらお願いをしたいと思いますがいかかでしょうか。</p> <p>ちょっと話は変わりますが、1点だけ。</p> <p>こないだAPUの今村副学長が来られて、沖縄県に学校の交流で行ってきたが、沖縄県で9万部を観光学習教材ということで子ども達全員に配っていたと。沖縄も外貨を獲得して観光で潤っている街ですよ。それが市内に循環をして生活が成り立っていると。観光というひとつの商売というか産業を中心としたものの考</p>

発言者	発言の内容
総務課参事	<p>え方で、私達はどのような生活が成り立っているか、中を見たら、観光のことですけれども、バリアフリーのこととか、観光にはどんな分野があるかとか、どんな職業があるかとか、非常に別府学でやっていることと相通ずるものがあるなと思いました。これ、沖縄県の子ども達全員が持っているそうです。別府も就業者数の9割が観光とかサービス業の街ですから、是非、後で差し上げますので皆さんに見ていただければと思います。その他、皆様方から何かございませんか。</p> <p>以上で議事を終了とさせていただきたいと思います。教育委員会の各学校の皆様におかれましては、本日いただきました御意見を活かしていただいて、子ども達のために一緒になって御尽力をいただければと思います。先程、各委員の皆様から「これやろう」ということに関しては、また別途、私と協議をさせていただきながら、どう具体的に作っていくかということをお知らせをして、必ず実行していくということをお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事務局にお返しいたします。</p> <p>御協議ありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、平成30年度第1回別府市総合教育会議を終了させていただきます。本日は御参加いただき誠にありがとうございました。</p>

以上